

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	保健・体育	
科目基礎情報							
科目番号	1A056			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	櫻岡 広						
到達目標							
☐ スポーツテストで自分自身の体力を知ることが出来る ☐ 救命処置を確実にすることが出来る ☐ 自分自身の適度な運動量を知ることが出来る ☐ エイズについて理解することが出来る							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		スポーツテストを通じて、自分の限界と適切な運動量を知ることができる		自分の体力をスポーツテストで知ることができる		自分の体力をスポーツテストで知ることができない	
評価項目2		用具などの位置を把握し、救命措置をおこなうことができる		救命措置をおこなうことができる		救命措置をおこなうことができない	
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		前期 ・スポーツテスト {自分自身の能力 (体力) を知る} ・心拍数の測定 (講義) ・球技大会の練習 (スポーツ種目別の練習) ・心肺蘇生法 (講義 & 実習) 後期 ・至適歩行速度の説明 (講義) ・トレーニング1 至適歩行速度を求める。 ・サッカー ・AIDSについて (講義)					
授業の進め方・方法		教科書は使わない、必要に応じてプリントを配布					
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		1年間の授業の説明・注意事項		
		2週	スポーツテスト		50m走・ハンドボール投げ・立ち幅跳び等		
		3週	スポーツテスト		50m走・ハンドボール投げ・立ち幅跳び等		
		4週	講義		身体活動の仕組みとそれを行うためのエネルギー産生について理解する		
		5週	スポーツテスト		持久走		
		6週	ソフトボール		投・捕・打というスポーツの基本動作の習得		
		7週	ソフトボール		投・捕・打というスポーツの基本動作の習得		
		8週	ソフトボール		投・捕・打というスポーツの基本動作の習得		
	2ndQ	9週	球技大会練習		球技大会の出場種目別に練習		
		10週	球技大会練習		球技大会の出場種目別に練習		
		11週	球技大会練習		球技大会の出場種目別に練習		
		12週	救命処置		ダミーを使って、人工呼吸・胸骨圧迫を習得する		
		13週	救命処置		ダミーを使って、人工呼吸・胸骨圧迫を習得する		
		14週	救命処置 (テスト)		人工呼吸・胸骨圧迫が習得できているかテストする		
		15週	救命処置 (テスト)		人工呼吸・胸骨圧迫が習得できているかテストする		
		16週					
後期	3rdQ	1週	講義		至適運動強度について説明する		
		2週	ウォーキング		個々人の至適歩行速度を求め、その歩行速度を体得する		
		3週	ウォーキング		個々人の至適歩行速度を求め、その歩行速度を体得する		
		4週	テストⅠ		至適歩行速度を体得できているか確認するテスト		
		5週	テストⅡ		至適歩行速度を体得できているか確認するテスト		
		6週	テストⅢ		至適歩行速度を体得できているか確認するテスト		
		7週	フットサル		各科でチームを作り、総当たりでゲームをする (下半身を使うスポーツ)		
		8週	フットサル		各科でチームを作り、総当たりでゲームをする (下半身を使うスポーツ)		
	4thQ	9週	フットサル		各科でチームを作り、総当たりでゲームをする (下半身を使うスポーツ)		
		10週	バレーボール		各科でチームを作り、総当たりでゲームをする (上半身を使うスポーツ)		

		11週	バレーボール	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（上半身を使うスポーツ）
		12週	バレーボール	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（上半身を使うスポーツ）
		13週	バレーボール	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（上半身を使うスポーツ）
		14週	講義	エイズについて理解する
		15週	講義	エイズについて理解する
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	2	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	2	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	2	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	2	
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	2	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	2	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	2	

評価割合

	試験	スポーツテスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	10	0	20	0	10	100
基礎的能力	0	10	0	20	0	10	40
専門的能力	60	0	0	0	0	0	60
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0